

## 綾瀬市立天台小学校

研究テーマ：「学びを楽しむ子をめざして」—児童が資質・能力を身につけるための単元づくり・課題づくりを通して—

### 1 実践の目的

本校では、子供たちが自ら考え、友達と対話する中で「わかった!」「できた!」という実感を味わう主体的・対話的で深い学びを目指している。そのためには、「やってみたいな」「考えたいな」という単元を通じた学習課題の設定・単元づくりがポイントになると考える。自分で一生懸命考えたり、友達に相談して自分の考えを伝えたり合ったりする中で、交流する喜びや、課題を解決することができたという達成感を味わうことができれば「学びを楽しむ子」が増えると考えている。

アンケートの結果から、本校の児童は、教師との良好な関係を基盤に素直に学習に取り組んでいるが、「自分の考えを言語化する力」や、「自分の学びを自覚する力」に課題があると分析した。

そこで、児童が学びを楽しむような単元課題を設定すること、伝え合い活動の充実、振り返りの時間を設定し自分の学んだことを書いて表現させることが、児童の資質・能力を身に付けさせることにつながると考える。

### 2 実践の内容

#### (1) 校内研究の体制

本校は、全学級で授業公開をしている。授業公開は、全体会を伴う研究授業を年に3回、その他は授業公開後に参観者にアンケートを取り、授業の振り返りを行っている。職員全員を低・中・高学年のブロックに分け、

月に1回程度部会の時間を設けた。そこで、児童の実態や課題を共有し、どのような取組を行うか、研究授業に向けた話し合いをした。また、本年度は本校の課題である「書く力」や「話す力」を伸ばしていくために、研究授業の教科を国語に絞り、発達段階や系統性をより意識して教材研究をして、課題設定や単元づくりに取り組んだ。

#### (2) 読書活動の推進

課題である「自分の考えを言語化する力」を付けていくという視点から、少しでも多くの言葉に触れる機会をもつために、朝読書や図書時間の時間、課題が終わった後の隙間の時間などを有効的に活用している。また児童が本に興味をもてるように、学校司書と連携して、教員による本の紹介、学習内容に合わせた本の紹介や学年図書の設置、読み聞かせ等の活動を行った。図書館に足を運び、本を手にとってもらえるようにと図書委員会が、スタンプラリー等のイベントを企画した。

#### (3) 研究授業・研究協議の様子

##### ○授業検討会

全体会を伴う研究授業の際には、事前に授業検討会を設定しており、そこで単元を通じた学習課題の設定、単元づくり、振り返りについてみんなで検討した。特に、言語活動や互いの考えを伝え合う活動については、どのようなスタイルが適しているか、課題設定は適切か、支援の手立てはどのようなものがよいかについてグループで協議し、共有した。

#### ○授業後の協議

単元を通した学習課題の設定・単元づくり・言語活動や互いの考えを伝え合う活動・振り返りについてグループで協議をして、ワールドカフェ方式で共有した。

#### ○講師の指導講評・講義

国語科の特質や観点から、課題設定や単元づくりについて指導していただいた。また、教材研究をするにあたって教材文をどう読むか（物語文と説明文の違いなど）、児童が考えたいと思う課題はどんなものか、考えを書くことの大切さについて講義をしていただいた。

### 3 実践の成果と課題

#### ○成果

単元を通した学習課題の設定、単元づくり、言語活動や互いの考えを伝え合う活動、振り返りを意識しながら校内研究に取り組むことができた。学習内容に興味関心をもたせ「やってみたいな」という意欲をもたせるため、単元計画や、ワークシート、提示する資料の工夫が多くみられた。また、どの学年・学級でもめあての提示や振り返りを行っており、授業スタイルの共通化も図れていた。

低学年では、単元を通して同じ型のワークシートを活用したり、文章を書くための型を示したりすることで、まず児童が安心して考えを書く活動に取り組むことができた。十分に準備ができたことによって自信をもって考えを伝えることにつながった。

中学年では、クラス全体で「問い」に対して考えを伝え合った。教師がファシリテーターとなり児童の発言をつなげていくことにより、自分と友達の考えを比較したり、新たな視点を見出したりすることにつながっていた。

高学年では、自作資料を活用し文章の読み方や書き方の工夫について考え伝え合う活動を行った。単に理解したことを話すのではなく「文章をどう読んだか」ということを伝え合う活動は、自分の学び方を客観的に捉えることにつながり、アンケートの課題にも挙げられている「自分の言葉で振り返りを書く力」を育むことにもつながると考えられる。

#### ○課題

教師が提示した課題に対して前向きに取り組んでいるが、自分たちから課題や問いを見出すまでには至っていないこと、伝え合い活動が充実してきたため、振り返りをする時間が十分に取れなくなっていること、各部会の取組は充実していたが、低・中・高学年の系統的な接続があまり意識されていないことが挙げられる。

### 4 今後の展開

本年度の実践や2回のアンケートの結果をもとにすると、教師との良好な関係を基盤に、興味関心をもたせる工夫だけでなく、「こうしたらどうかな」「次はこんなことを考えたい」と児童たちから課題が出てくるような、単元づくりをしていく必要があると考える。また、もう一度「何のために振り返るのか」ということを考えて、全校で振り返りの視点を系統化し、低学年からの積み重ねができるようにしていきたい。振り返りの質を上げることが、次への学習や家庭での学習への意欲につながると考える。

今まで取り組んできた読書活動や国語科での取り組みも継続して行い、基本的な力を伸ばしながら他教科へと広げていき、学びを楽しむ子を育てていきたい。